2　　鳴く鹿への哀れみ　　読解のつぼ①　語の省略・の・ば

今は昔、［　Ａ　］、にしてへりたる［　Ｂ　］に、「狩り［　Ｃ　］せむ」とて、者ども［　Ｄ　］ひたるさり、①のいたく鳴きたれば、「いで、あはれや。明日死なむずれば、いたく鳴くにこそ」と（ⓐが）心がりければ、「②ささば、狩り［　Ｅ　］とどめむ。よからむ歌をみへ」と（ⓑがⓒに）言はれて、

ことわりや　いかでか鹿の［　Ｆ　］鳴かざらむ　③ばかりの命と思へば

さて、（ⓑは）④その日の狩りはとどめてけり。

語注

和泉式部＝平安時代の歌人。大江の娘。の娘・に仕えた。

保昌＝。和泉式部をともない、丹後国に国守として赴任。

丹後＝丹後国。現在の京都府北部。

【原文】

今は昔、、にしてへりたるに、「狩りせむ」とて、者どもひたるさり、のいたく鳴きたれば、「いで、あはれや。明日死なむずれば、いたく鳴くにこそ」と心がりければ、「ささば、狩りとどめむ。よからむ歌をみへ」と言はれて、

ことわりや　いかでか鹿の鳴かざらむ　ばかりの命と思へば

さて、その日の狩りはとどめてけり。

問一 本文中の空欄ⓐ〜ⓓに、次の指示に従って「保昌」・「和泉式部」のいずれかを答えよ。〈2点×4〉

ⓐ　動作主となる人物　　ⓑ　「言われた」人物

ⓒ　「言った」人物　　　ⓑ　動作主となる人物

ⓐ〔　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　〕　ⓓ〔　　　　　〕

問二 本文中の空欄Ａ〜Ｆに、次の指示に従って適当な語句を答えよ。〈2点×6〉

Ａ　主格を示す助詞を補う　　　Ｂ　文脈に合う体言を補う

Ｃ　目的格を示す助詞を補う　　Ｄ　主格を示す助詞を補う

Ｅ　目的格を示す助詞を補う　　Ｆ　助詞「の」を主格を示す助詞に改める

Ａ〔　　　　〕　Ｂ〔　　　　〕　Ｃ〔　　　　〕

Ｄ〔　　　　〕　Ｅ〔　　　　〕　Ｆ〔　　　　〕

問三 傍線部①を、次の傍線部に特に注意して現代語訳せよ。〈8点〉

鹿のいたく鳴きたれば〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四 傍線部②・③の解釈として最も適当なものを選べ。〈7点×2〉

ア　そのように、あなた和泉式部がお思いになるのであれば、私保昌は狩りをやめよう。

イ　そのように、あなた和泉式部がお思いになったので、私保昌は狩りをやめるつもりだ。

②　　ウ　そのように、あなた保昌がお思いになったとしても、私和泉式部は狩りをやめることができない。

エ　そのように、あなた保昌がお思いになるのならば、あなたは狩りをやめてはどうだろうか。

ア　私和泉式部が、鹿の命を今夜限りだと思うのならば。

イ　私和泉式部が、鹿の命を今夜限りだと思ったとしても。

③　　ウ　鹿が、もし自分の命が今夜限りだと思えば。

エ　鹿が、自分の命が今夜限りだと思うと。

②〔　　　〕③〔　　　〕

問五 傍線部④とあるが、なぜ保昌は狩りをやめたのか。最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　和泉式部の考えに全て納得できないものの、ことを荒立てたくないと思ったから。

イ　鹿に同情する和泉式部の気持ちを理解し、またその時の歌をすばらしく感じたから。

ウ　狩りをめようとする和泉式部の振る舞いや歌によって、反省の思いが生じたから。

エ　鳴き声に哀れさを感じていた時に和泉式部の歌を聞き、狩りをする気がせたから。

〔　　　〕

【解答】

問一　ⓐ＝和泉式部　ⓑ＝和泉式部　ⓒ＝保昌　ⓓ＝保昌〈2点×4〉

問二　Ａ＝が　Ｂ＝時　Ｃ＝を　Ｄ＝が　Ｅ＝を　Ｆ＝が〈2点×6〉

問三　鹿がひどく鳴いているので〈8点〉

問四　②＝ア　③＝エ〈7点×2〉

問五　イ〈8点〉

【現代語訳】

今となっては昔のことだが、和泉式部が、保昌に伴って丹後の国へ下った時に、「明日狩りをしよう」と言って、人々が集まった夜半、鹿がひどく鳴いているので、「なんと、かわいそうなことよ。明日死ぬだろう（という）ので、ひどく鳴くのだなあ」と（和泉式部が）嘆く様子をしたので、「（あなたが）そのようにお思いになるならば、（私は）狩りをやめよう。（代わりにあなたが）よい歌をお詠みなさい」と（和泉式部が保昌に）言われて、（詠んだ歌。）

もっともです。どうして鹿が鳴かないことがありましょうか、いや鳴かずにはいられません。（鹿は）今夜限りの命と思うと。

そうして、（保昌は）その日の狩りをやめてしまった。

【補充問題】

問１　次の語の意味をそれぞれ答えよ（終止形でよい）。

①「具し」（１行目）

②「思さ」（３行目）

問２　「丹後」（１行目）とは、現在のどこか。その地域を含む都道府県名で答えよ。

問３　「狩りせむ」（１行目）を現代語訳せよ。

問４　「いたく鳴くにこそ」（２～３行目）における和泉式部の心情として最も適当なものを選べ。

ア　もうすぐ死んでしまうことに気付いた鹿に驚いている。

イ　仲間の死を嘆いて鳴き続ける鹿の思いに共感している。

ウ　次の日に死ぬことを悲しんでいる鹿に同情している。

エ　鹿がいつまでも鳴いていることを不思議に思っている。

【補充問題解答】

問１　①伴って　②お思いになる

問２　京都府

問３　狩りをしよう

問４　ウ